

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902389		
法人名	医療法人社団淳彩会 永山循環器科クリニック		
事業所名	医療法人社団淳彩会 グループホームせせらぎの里		
所在地	旭川市永山7条4丁目2-1 (電話) 0166-49-6060		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】 (20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	9月	20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	20 人	常勤	14人	非常勤 6人 常勤換算 9.55人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	維持管理費 21,000円(5~9月) (光熱費・日用品) 27,000円(10~4月)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	3	名	要介護2	3	名	
要介護3	8	名	要介護4	3	名	
要介護5	0	名	要支援2	1	名	
年齢	平均	82.44 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永山循環器科クリニック、旭川ペインクリニック、たくま歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな住宅街の中で、近くに運営法人の系列病院や系列のグループホームもあり、ケアサービスの連携が取りやすい環境に立地している。建物は天窓からの採光で広いリビングは明るく、ホームの中央には植栽のある中庭があり、余裕のある設計の中にも、心身の状況に配慮された、家庭的で快適な空間を創っている。利用者に対する職員の対応は、常に穏やかであり、その人らしい生活を第一に考えて利用者本位の対応を実践している。併設の高齢者マンションの入居者との日常的な交流や地域交流ホール「ふれあい会館」でのイベントへの参加など、地域の方々との積極的な交流を行ない、利用者の楽しみごとや生活の質の向上につなげるなど、利用者の自由な暮らしを支援している。運営法人は、地域貢献の意識が高く、今後の更なる活動が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で指摘された避難訓練時の地域住民の参加については、運営推進会議や回覧用の「せせらぎの里便り」を通じ協力要請を行ない、本年度の災害訓練時には、近隣住民の参加協力をいただき行なわれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員全員による気づきや反省などが話し合わせられ作成されている。今回の自己評価および外部評価結果を踏まえた改善対策に、改善計画シートなどを活用し、計画的な改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的な運営推進会議が開催され運営状況、行事などが報告されている。また、併設の「ふれあい会館」で行なわれるイベントの案内、地域の協力事項や災害時の協力依頼など、様々な事案を議題として、町内会長、福祉部長、利用者、家族などから意見・提案などが交わされている。利用者の散歩コースの道路状態について、会議の中で話し合わせ、道路環境整備が行なわれるなど、地域貢献にも努めており、地域の理解と協力体制が構築されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「意見箱」の設置や家族会の開催時に意見や要望をいただいたり、日頃から家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。家族会主催の行事を開催するなど、家族との協働を重視した活動にも積極的に取り組まれている。</p>
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	<p>町内の清掃活動、地域の行事に職員も利用者とともに積極的に参加している。また、近隣の中学校の学校行事への招待や職場体験の受け入れ、保育園児との定期的な交流が行なわれ、利用者の楽しみごとになっている。また、散歩の時の挨拶や近隣住民からお花をいただくなど、自然な形で地域の方々や顔馴染みの関係作りがされている。「せせらぎの里便り」を回覧し、ホームや「ふれあい会館」での催しを案内し広報にも努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に、より密着したホームを目指して開設されたホームで、地域性を活かし安心した生活を支えるためのホーム独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝申し送り時に理念を復唱し、意識づけを実践している。施設長および管理者は、ミーティングや日々の申し送りなどを通して職員と共有し、理念を認識しながら、利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動、地域の行事に職員も利用者とともに積極的に参加している。近隣の中学校の行事への招待や職場体験の受け入れ、保育園児との定期的な交流が行なわれ、利用者の楽しみごとになっている。散歩の時の挨拶や近隣住民の方々からお花をいただくなど、地域と顔馴染みの関係作りが出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者、職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解し、前回評価の改善課題は職員全員で話し合いがもたれ、改善に向けた取り組みが行なわれている。本年度の自己評価では、職員全員による気づきや反省などが話し合われ作成されているが、見出された課題の具体的な話し合いや取り組みには至っていない。	○	自己評価および外部評価結果を踏まえた改善対策に、改善計画シートなどを活用し、計画的な改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待します。また、取り組みの進捗状況を運営推進会議に報告しながら、モニター役となっていただくなどの取り組みを期待します。

旭川市 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開催され運営状況、行事などが報告されている。併設している「ふれあい会館」で行なわれるイベントの案内、地域の協力事項や災害時の協力依頼など、様々な事案を議題として意見・提案などが交わされている。本年度の避難訓練時には、地域住民の方々の参加・協力もいただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長および管理者は、市担当者に各種相談や情報収集を行っており、市や地域包括支援センターが開催する研修会や会議などに参加している。また、「SOSやまびこ」ネットワークの活動などに協働している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「せせらぎの里便り」を発行し、利用者の写真などが掲載され、日頃の様子や行事、職員の異動などが報告されている。また、利用者一人ひとりの心身の状況、生活の状況なども報告されている。金銭出納簿は毎月家族に明細を明らかにし、家族の了解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」の設置や家族会の開催時に意見や要望をいただいたり、日頃から家族との交流を図り、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれ、ケアに反映させている。家族会主催の行事を開催するなど、家族との協働を重視した活動にも積極的に取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を一人ひとりに合わせて説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努めている。また家族への報告は便りに掲載し報告されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長および管理者は人材育成の重要性を認識し、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交代で参加し、職員間での共有化も図られている。外部研修参加費はホーム負担とし、運営者が救急救命やAEDの使用法など、実践的な研修も積極的に行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長および管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっている。また、施設長はグループホームケア研究会を立ち上げ、ほかの業者との交流や事例研究などを行ない、ほかのホームと協働しながら、ケアの質の向上に積極的に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ない、見学した後に入居となっている。病院からの利用者には、事前に職員が行き来しながら、馴染みの関係を築いている。利用者のペースで馴染むことができるよう配慮し、信頼関係を築きながら、利用者や家族が安心して納得いただけるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。職員は利用者とともに過ごす中で、年長者から学ぶ姿勢を保持し、生活の知恵や知識に触れる場面作りを行ない、共同作業や会話を通して感謝の意や尊敬の念を表わしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴や環境、家族構成など詳細に情報を聴くとともに、利用者の日々の言動や表情から、思いや願いを汲み取り、利用者本位に検討し、把握に努め共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状況把握に職員全員で係わり、課題の把握に努め、日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。また、家族や利用者の思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら、介護計画が作成されている。センター方式の採用を検討しており、職員の勉強会も行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、また、利用者の状況や状態の変化などにより見直しを行ない、職員と話し合いながら、ケアに反映させているが、現状に合った新たな介護計画の作成には、至っていない場合もある。	○	日々の記録は経過のみを記すのではなく、介護計画に基づいた実践を行ない、その実践・結果、気づき、様子などの記録となるよう書式の工夫や体制整備を期待します。また、個別記録を基に介護計画の遂行状況や効果などの評価を行ない、現状に合った介護計画になるよう、柔軟かつ臨機応変に介護計画が作成されることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の医療機関と連携した支援や散歩、買物、通院への付き添いなど、天候や利用者の気分に応じて外出支援を行なっている。車椅子や歩行が困難な利用者に対しても希望を聞きながら、出掛けられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者が毎週末来訪し健康チェックを行ない、利用者の健康管理の支援をしている。利用者の希望により、かかりつけ医や他科受診の通院支援も行っており、職員が通院介助をした際は受診結果などを記録し、家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に関する指針を明示し、同意書が整備されている。家族や利用者の意向も尊重しながら、医療機関とも相談し、対応する予定であるが、職員間での具体的な方針などについての話し合いには至っていない。	○	重度化や終末期に際してのあり方は、ホームを中心にできるだけ早い時期から、利用者、家族、医師などで対応の確認が必要であり、ホームが対応しうる最大の支援の具体的方策について、早い時期の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行なっている。書類や個人記録などの管理も十分に配慮されている。しかし、面会簿がホーム入口に置かれ、不特定多数の人が閲覧できる状態となっている。	○	利用者一人ひとりの写真や記名などの使用については、利用者並びに家族の同意をいただき、また、面会簿の記入方法については個表にするなど、検討工夫されることを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がなされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にした、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には、職員が同席して同じ食事を取りながら、楽しく食事が出来るよう支援されている。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意な事・関心のある事を把握し、楽しみながら支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるよう対応されている。現在のところ夜間帯の入浴を希望する利用者はいません。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物への水やりや除雪、パッチワークなど、利用者の気持ちや力を活かす場面作りを行ない、充実感や達成感に配慮した支援をしている。家事など暮らしの中での役割や趣味のサポート、外出での気晴らし、楽しみごとなど利用者の視点に立ち、豊かな生活支援に取り組んでいる。また、園児や学生との交流や併設の「ふれあい会館」での催しにも参加し、楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ、通院への付き添いなど、利用者の状態に応じて、外出を楽しめる支援を行っている。また、ホームに隣接された畑には、水やりや収穫時に一緒に出かけ、成長の楽しみを持てるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子が見られる時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な災害訓練が実施され、利用者および地域の方々の参加により、夜間帯を想定した防災訓練も行ない、不測の事態に備えている。また、緊急連絡網に町内会長も入っていただくなど、地域の理解と協力体制が構築されている。災害時に備えた物品の検討も行なわれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は記録され、食事カロリーや水分摂取が最適になるよう配慮している。食事メニューは運営法人の栄養士が作成しており、職員は調理方法や盛り付けを工夫し、利用者の食が進むよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの採光で広いリビングは明るく、ホームの中央には植栽のある中庭もあり、利用者や訪問者に和やかな空間となっている。壁面には運営者が撮影した写真や季節に合わせた飾りがあり、居心地よい雰囲気となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては仏壇や植物が持ち込まれ、家庭の延長線上の雰囲気の中で、安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。